

平成24年度 活動概要と進捗状況

	目的・体制等	平成24年度活動の進捗状況（予定を含む）		
調査委員会活動（JKA補助事業）	震災と環境変化に対応する新たな研究開発体制の調査検討委員会	<p>1. 目的、内容 震災や国際競争の激化などの急激な環境変化の中で新たな研究開発体制構築に向けた包括的な検討を行う。</p> <p>2. 委員会構成 企業委員 8社 12名 学識委員 4名 本検討委員会を親委員会とし、下に5専門委員会を設置する。 ①研究開発マネジメント専門委員会 ②技術系人材・教育専門委員会 ③産学連携検討専門委員会 ④環境技術調査専門委員会 ⑤検査・分析専門委員会</p>	委員会	<p>①6/21 検討委員会を開催し、今年度調査内容について議論した。調査の論点について意見交換した。具体的な調査は専門委員会（マネジメント専門委員会、人材教育専門委員会、産学連携検討専門委員会、環境技術専門委員会、検査分析専門委員会）にて実施することとした。</p> <p>②3月に検討委員会によって各専門委員会の調査活動内容をまとめた。</p>
	研究開発マネジメント専門委員会	<p>1. 目的、調査方針 競争力強化に向け、研究開発のマネジメントのあり方のヒントを探ることを目的とし、以下の点を中心に調査を行う。 ①研究開発による市場創造 ②急変下での研究テーマ設定 ③知財マネジメント</p> <p>2. 委員会構成 企業委員 21社 24名 学識委員 3名 委員長：(株)竹中工務店 技術研究所 大野企画部長 副委員長：(株)大阪ガス 永田顧問</p>	準備委員会	①4/24
			委員会	①7/5、②9/11、③12/25、④1/30、⑤2/18
			国内訪問調査・ヒアリング調査	2/7,8 村田製作所、大阪ガス行動観察研究所
		講演会	<p>7/5 「“モノづくり”が通用しないグローバル市場の登場 - 仕組み作りと知財戦略への転換に向けて -」 東京大学大学院経済研究科 モノづくり経営研究センター 小川紘一氏</p> <p>9/11 「デザイン・ブランド戦略の新展開」 東京大学 先端科学技術研究センター 教授 渡部俊哉氏</p> <p>12/25 「特許から考える勝つための研究開発 - 技術のコモディティ化を見極める」 内田鮫島弁護士事務所 鮫島正洋氏</p> <p>「コマツにおける研究開発」 コマツ 執行役員 研究本部長 江嶋聞夫氏</p> <p>2/18 「ビジネスモデルを異業種に移植する」 早稲田大学ビジネススクール 山田英夫氏</p>	
		アンケート調査	<p>研究開発を実施している大手企業約1,000社を対象に実態調査を実施。 〔主な調査項目〕 ① 研究開発基礎データ、② 研究開発における知財マネジメント戦略、③ 新規事業開拓</p>	

		目的・体制等	平成24年度活動の進捗状況（予定を含む）	
調査委員会活動 (JKA補助事業) つづき	技術系人材・教育専門委員会	1. 目的、調査方針 研究開発人材の問題のうち、以下の点を中心に調査を行う。 ①研究開発人材の育成 ②モチベーション向上策 ③研究開発者のキャリアパス ④ダイバーシティの視点より、技術系人材のグローバル・マネジメントをテーマとする。 2. 委員会構成 企業委員 9社 14名 学識委員 2名 委員長：(株)三菱総合研究所 石塚主席研究員 副委員長：筑波大学 小林教授	準備委員会	4/16
			委員会	①5/30 ②6/27 ③8/1 ④8/22
			海外訪問調査	11/22-29 ベトナム訪問調査を他委員会と合同で実施 (JETRO、ホーチミン工科大学、ハノイ工科大学、東芝ソフト開発、三菱重工航空機、ギソンセメント、パナソニック、FPT)
			講演会	5/30 「大学教育での人材育成の現状と課題」 筑波大学 教授 小林信一氏 6/27 「サムスンの人材育成」 日本サムスン 元顧問 石田賢氏 8/ 1 「グローバル人材」 千代田化工建設 HRM本部長 村田俊哉氏 1/11 「FPTソフト」 FPT Japan 社長 Tran Xuan Khoi氏 2/14 「海外における産学連携人材育成 -欧州・韓国を中心として-」 東洋大学 総合情報学部長 大場善次郎氏
	産学連携検討専門委員会	1. 目的、調査方針 産学連携における現状や問題を把握することを目的とし、特に以下の点について調査を行う。 ・産業界と大学との連携による技術の確保と人材の育成 2. 委員会構成 企業委員 6社 7名 学識委員 3名 委員長：古河電工(株) 橋マネージャー	準備委員会	①4/19
			委員会	①6/5、②7/11、③9/18、④2/5
			国内訪問調査	10/ 1 日本鉄鋼協会究センター 10/31 宇都宮大学オペティクス教育センター 1/24 電子情報技術産業協会
			講演会	9/18 「化学産業における産学連携人材育成の取り組み」 新化学技術推進協会
	環境技術調査専門委員会	1. 目的、調査方針 環境問題の内、エネルギー・バランス、資源・環境規制、水問題などについて、下記の調査をする。 ①環境ビジネスの動向及び実施例 ②環境技術政策 ③未来における環境社会・環境産業のあり方 2. 委員会構成 企業委員 11社 11名 委員長：清水建設(株) 山崎上席マネージャ 副委員長：富士電機 荻野部長	準備委員会	①4/19
			委員会	①7/18 ②9/6 ③11/15 ④12/5 ⑤1/16
			国内訪問調査	9/6 東京ガス 南千住テクノロジーセンター 12/5 北九州スマートコミュニティ
			講演会	7/18 「東日本大震災の復興における ネットゼロエネルギー化・低炭素化を目指す 先進都市構造モデル街区の検討」 清水建設 技術研究所上席マネージャ 山崎雄介氏 11/15 「国内外の環境ビジネス市場の概況 2012年版」 三菱総合研究所 主任研究員 高島由布子氏 1/16 「世界、そして我が国の環境・エネ関連概況」 三菱総合研究所 参与 吉田直樹氏

		目的・体制等	平成24年度活動の進捗状況（予定を含む）	
調査委員会活動 （JKA補助事業）	検査・分析専門委員会	<p>1. 目的、活動方針 検査・分析業が直面している課題解決を目的に、各ワーキンググループ（WG）が中心となり、以下の活動を行う。 ①検査・分析業に関する実態調査（WG-1） ②適合性評価の動向調査（WG-2） ③公益法人、公的機関などとの交流・調査及び講演会（WG-3）</p> <p>2. 委員会構成 企業委員 15社 15名 委員長：(株)日産アーク 山口部長 副委員長：住友金属テクノロジー(株) 岸本専任部長 副委員長：(株)東レリサーチセンター 島津部長</p>	準備委員会	①4/17
			委員会	①6/19 ②7/27 ③9/5④10/2⑤11/20⑥12/11⑦1/17
			アンケート調査	検査・分析業の実態について、これまでの調査をベースに、海外展開の状況、技能伝承の視点なども含めアンケートを実施した。
			国内訪問調査	11/6-7 バイオマスリファイナリー研究センター、銘建工業(株) 12/12 電源開発(株)磯子火力発電所、日産自動車(株)、追浜工場見学
			講演会	1/17 スポーツドーピング検査における質量分析と最近の話題 (財)日本分析センターアンチドーピング研究所
標準化委員会活動 （JKA補助事業）	新エネ素子の開発加速に資するナノ領域元素分析標準化検討委員会	<p>1. 目的、内容 将来急成長が期待される技術領域では、国際標準規格づくりに先手を打つことが重要である。中でもナノテクノロジー分野の中核技術として製品品質を高精度に保証するための分析技術の標準化が不可欠であり、その標準試料と標準分析手法を検討する。</p> <p>2. 体制 検討委員会を組織し検討。 委員長 産業技術総合研究所 計測標準研究部門 ナノ材料計測科 委員 表面・ナノ分析研究室 研究室 黒河室長 学識経験者 2名、企業委員 11名</p>	実施内容	ナノテクノロジーの先端分析の国際標準規格を目指して、ナノ領域の元素分析を対象として標準試料と標準分析手法を検討。 わが国が主導的立場にあるISO TC 202のSC 3委員会の次期検討テーマにつながる分析試料と分析手順（EELS）を対象とし、産業技術総合研究所・標準化担当グループと連携し、共通試料の試作およびその評価についての検討を国内有力分析機関と協力して実施。
			評価試験など	ナノテク高機能材料のうち震災後のエネルギー問題解決を念頭にナノ領域元素分析の対象となる共通試料・分析手法（EELS分析、SIMS分析）について実施。
			委員会	6/12 第1回委員会 8/6 第2回委員会 10/30 第3回委員会 12/21 第4回委員会 2/28 第5回委員会
独自調査活動	研究開発サービス業振興	<p>1. 目的、内容 我が国の研究開発活性化のため研究開発を受託・支援する企業の振興を図ることを目的とし、将来の協会事業への展開を視野に入れて実施する。</p>	委員会 (マネジメント委員会に統合)	新しい研究開発支援企業として研究開発のビジネス戦略に係る支援（技術マーケティング、戦略策定支援など）を対象とする調査を検討。 (研究開発マネジメント専門委員会での検討)。
	高齢社会技術サービス調査委員会	<p>1. 目的、内容 今後、我が国が世界に先駆けて対応することとなる高齢化社会に向け、新たなビジネス創出のヒントとなる技術とサービス提供の視点で研究開発課題について調査する。国などのプロジェクトへの展開も検討する。</p> <p>2. 委員会構成 委員長：日立製作所 研究開発本部 技術戦略室 新谷部長 (オブザーバー 東大 高齢社会総合研究機構長 鎌田教授) 委員：9名</p>	委員会	①6/12、②7/3、③7/25、④8/28、⑤9/28、⑥10/10、⑦11/7、⑧11/16、⑨12/4、⑩1/8、⑪1/11、⑫1/25
			国内訪問調査	元気シニアが活躍できる場（シニアによる起業、企業支援など）に注目し以下のヒアリング調査を実施。 10/22 銀座セカンドライフ 11/6 東京しごとセンター 11/16 福祉クラブ生協 1/11 都岐紗羅パートナーズセンター
講演会	9/28 「シニアによる中小企業支援—中小機構の取り組み」 (独)中小機構 新事業支援部 チーフアドバイザー 加藤義信氏 10/10 「元気シニアの活躍事例」(株)GEVN 代表取締役 桑原裕氏 11/7 「一人でも多くの高齢者に働く場と生きがいを提供するために (高齢社の設立)」(株)高齢社 会長 上田研二氏			

		目的・体制等	平成24年度活動の進捗状況（予定を含む）	
独自調査活動	目利きコミュニティ委員会	<p>1. 目的、内容 研究開発OB人財の登録・活用制度を昨年よりスタートし、産業貢献、社会貢献、国際貢献での有効なOB人財活動に向けた具体的な活動企画推進を行う。</p> <p>2. 委員会構成 委員長：東洋大 総合情報学部長 大場教授 委員：企業委員 4名 学識委員 1名 公的機関委員 3名</p>	委員会	①8/2
			活動	<p>産業貢献：計測・表現法に関する分科会 ⑥4/19 ⑦6/7 ⑧7/20 ⑨9/3 ⑩10/31 ⑪1/10 ⑫3/6</p> <p>社会貢献：大学・工専での理工教育・交流 1/31 愛媛大学 工学部講演会</p>
国際交流活動 (JK A補助事業)	BOP技術ミッション検討委員会	<p>1. 目的、内容 世界で40億人とも言われる低所得者層（BOP層）、中所得層のボリュームゾーンに目を向け、今期はアラブ圏域を調査ターゲットとする。</p> <p>欧州市場や世界市場への技術協力拠点、研究協力拠点であるモロッコを対象地域とし、再生可能エネルギー、水処理、食品加工などの技術分野についての技術紹介と、現地でのBOPビジネスの可能性調査を実施する。</p> <p>2. 委員会構成 学識経験者1名 企業委員 3社 3名</p>	委員会	①7/20 ②9/13 ③11/9
			海外訪問調査	10/14-25に現地訪問調査を実施した。
			講演会	<p>7/20 UNIDOにおけるBOPへの取り組みについて（UNIDO ゲレゲン氏） ジェトロのBOPビジネス支援について（JETRO木ノ本氏）</p> <p>9/13 モロッコ王国について モロッコ王国公使（モハメッド ショーラック氏）</p>
	研究開発マネジメント国際交流	<p>1. 目的、内容 大震災後の急激な円高、電力不足懸念、生産拠点の海外展開が進む日本企業にとり必要な、目指すべき新成長戦略に沿った研究開発マネジメントに関して、EIRMA、IRI等の類似機関を訪問し、最新情報を入手する。</p>	委員会 (運営委員会でミッション討議)	<p>9/4 運営委員会の議題として、訪問ミッションを承認。</p> <p>9/12-14 IRI訪問、Fall Multi-Networking meeting 参加</p> <p>10/25 EIRMA訪問、CTO meeting 参加</p> <p>12/23 運営委員会において、訪問ミッションを報告。</p> <p>1/18 W-F I R A結成に向けて、EIRMA、IRI、ATSEと国際電話会合。</p> <p>5/22、23 W-F I R A調印式予定</p>

		目的・体制等	平成24年度活動の進捗状況（予定を含む）	
技術交流活動（JKA補助事業）	産業技術重点分野技術交流	<p>1. 目的、内容 産業界と独法研究機関及び国公立研究機関との連携により、組織の枠を超えたライフイノベーション、グリーンイノベーション分野での横断的研究情報・研究成果の交換・交流を可能にする「場」の実現を目的とする。上記新成長戦略で位置づけられる重点技術領域において、技術ニーズ・シーズ及びノウハウの情報交流の場として、主として独立行政法人等の研究者を講師とする先導技術交流会を開催し、産業技術の質の向上を図ると共に、共同研究などの促進を図る。</p> <p>2. 委員会構成 （1）先導技術検討委員会 委員長：東京ガス 技術戦略部 浦辺様 委員：13名 オブザーバー：2名 （2）先進医療機器技術研究会 委員長：東京電機大学 土肥教授 委員：8名 オブザーバー：5名</p>	先導技術検討委員会	<p><先導技術検討委員会> 7/6 第1回先導技術検討委員会 11/9 第2回先導技術検討委員会 11/30 柏の葉キャンパスシテイ見学会 3/1 第3回先導技術検討委員会</p>
			先導技術交流会講演会・シンポジウム	<p><先導技術交流会講演会・シンポジウム> 6/20 第1回「バイオ電池の現状と将来」 筑波大学辻村清也先生、東京薬科大学渡邊一哉先生、ソニー（株）中川貴晶氏 参加者：25名 9/7 第2回「新エネルギー開発の取り組みに対する国内外の最新状況について」 NEDO 新エネルギー部長 橋本道雄氏 参加者：20名 10/19第3回「再生可能エネルギー -産総研の研究戦略-」 （独）産業技術総合研究所 企画本部 副本部長 大和田野芳郎氏 参加者：19名 11/19第4回「フレキシブルエレクトロニクス現状と将来」 （独）産業技術総合研究所 フレキシブルエレクトロニクス研究センター センター長 鎌田俊英氏 参加者：17名 12/7 4U医工連携シンポジウム（共催）JST東京本部サイエンスプラザ 講演：東芝メディカルシステムズ株式会社 経営企画部参与 藤原茂美氏他5名、 パネルディスカッション：パネリスト5名 参加者：104名 1/21 第5回（シンポジウム） 「次世代バイオ医薬品への挑戦(2) ～CHO細胞に替わる生産系開発の現状とレギュレーションの世界動向～」 東京・芝公園 機械振興会館 国立医薬品食品衛生研究所 生物薬品部・抗体医薬品プロジェクト 山口照英先生 他5名 参加者：118名 2/7 第6回 「蓄電池の技術開発動向および産業動向 -自動車用途、電力エネルギー用途を中心に-」 （独）産業技術総合研究所ユビキタスエネルギー研究部門長 小林哲彦氏 「蓄電材料研究開発のトピック紹介 -ナトリウムイオン電池・キャパシタの研究開発-」 （独）産業技術総合研究所ユビキタスエネルギー研究部門新エネルギー媒体研究グループ 倉谷健太郎氏 参加者：15名</p>

		目的・体制等	平成24年度活動の進捗状況（予定を含む）	
技術交流活動（JK A補助事業）	産業技術重点分野技術交流つづき		先進医療機器技術研究会	<先進医療機器技術研究会委員会> 7/31 第1回委員会 3/4 第2回委員会
			先進医療機器技術研究会講演会	<先進医療機器技術研究会講演会> 7/31 第1回「実3次元画像表示装置の基本原理と現状」 東京大学医学部附属病院中島 勸先生, 東京大学大学院工学研究科 廖 洪恩先生 参加者：16名 12/14第2回「生体磁気の歴史・現状・将来展望」 東京電機大学 名誉教授 小谷誠先生 参加者：10名 1/29 第3回「拡張現実感による治療支援システムの動向と課題」東京大学大学院情報理工学系研究科 准教授 正宗 賢先生 参加者：12名
	シンポジウム等	1. 目的、内容 研究開発において多くの業界・企業が共通で抱えている課題等について、斯界の識者からさまざまな視点からイノベーションの創出に向けた取り組みについてご講演をいただき、将来に向けた持続性のあるイノベーション実現に向けた鍵、課題等を議論する。	シンポジウム	10/19-20 政策研究大学院大学想海楼ホールにて、武田計測先端知財団と共催にて「e-アジア国際シンポジウム2012」を開催。 3/15 中央大学 駿河台記念館にて「やる気シニアが楽しく働ける仕組みづくり」－高齢社会における協働促進プラットフォームの整備に向けて－を開催予定
学生へ出張講義、企業見学	1. 目的、内容 理系進学・就職学生の減少の中で、次世代の研究開発人材たる学生等へ研究開発の魅力を伝えるため、現役の企業研究者・管理者等を全国7地区に派遣し、出張講義を行う。	出張講義・交流	目利きコミュニティ委員会と共同 1/31 愛媛大学 工学部講演会「グローバル化社会の中での企業の研究開発」開催 基調講演 東洋大学総合情報学長 大場善次郎氏 「先端技術を支える分析・評価技術」 住化分析センター 愛媛事業所副所長 水野正氏 「スマートデバイスの超薄型小型化、超軽量化を支える実装技術」 NECパーソナルソリューション事業開発本部 イノベーションセンター マネージャー 吉広貴明氏 「グローバルトップを目指す東レの複合材料」 東レ 複合材料研究所長 北野彰彦氏	

		目的・体制等	平成24年度活動の進捗状況（予定を含む）	
(経済産業省 受託事業 関東経済産業局)	平成24年度 戦略的基盤技術高度化支援事業「角形チップ用フォトレジスト塗布装置・現像装置の開発」	1. 目的、内容 角形チップ用のフォトレジスト塗布装置と現像装置を開発する。装置性能をマイクロめっき技術への適用によって検証する。これにより角形チップ単位でのリソグラフィ加工を実現し、3次元実装技術等を使った電子部品の研究開発コストの低減と開発・生産工期の短縮を可能にする。市場導入に向けて、10mm×10mmのサイズの角形基板に対応できる装置を開発する。 2. 体制 研究開発参加機関：リソテックジャパン（株）、九州大学、（独）産業技術総合研究所、（株）オジックテクノロジーズ 統括研究代表、副統括研究代表（研究開発指揮） 統括研究代表：リソテックジャパン（株）扇子義久Group長 他研究参加者 9名 研究推進委員会（進捗管理） 参加者：研究開発担当者8名、アドバイザー1名（村田製作所） 事務局：当協会（契約、管理、経理、会議支援）4名	実施内容 本研究開発の成果により、3次元実装技術や部品内蔵型基板技術を用いた高密度集積電子部品・デバイスを低コストで開発し、少量多品種対応で生産することを可能にすることができ、上記高度化目標の達成に貢献できる。技術的な目標は、「一辺10mmの角形チップの表面に、高密度マイクロパンプのめっきによる生産が可能な厚さのフォトレジストを均一に塗布する」ことである。ユーザーに提供する装置に要する具体的な数値目標は以下のとおりである。 ①角形チップ用フォトレジスト塗布装置の開発/チップサイズ：10mm×10mm、周辺不均一領域：11mm2以下、均一性：厚さ10ミクロン±5%、レジスト膜厚：10ミクロンまで可、大きさ：幅294mm×高さ1440mm×奥行き450mm ②角形チップ用フォトレジスト現像装置の開発/線幅均一性：線幅3ミクロン±5%以下（厚さ10ミクロン）、大きさ：幅294mm×高さ1440mm×奥行き450mm ③3D LSI対応技術の開発/チップサイズ10mm×10mmでのめっきパンプ形成、20ミクロンピッチで1万ピンの接合	
			研究推進委員会等 10/1 第1回研究開発会議 12/21 第1回研究推進委員会 1/22 中間評価ヒアリング 1/22 第2回研究開発会議 1月 中間検査 3月 確定検査	
受託事業 (経済産業省 商務情報政策局)	平成24年度 課題解決型医療機器等開発事業「様々な内視鏡手術に対応する先端機能交換型極細径屈曲鉗子の研究開発」	1. 目的、内容 近年da Vinci手術ロボットをはじめとする内視鏡手術用の多自由度マニピュレータの開発が進んでいるが、実用化されているのは欧米企業数社のみであり、国内では未だ実用化には至っていない。また極細径（外径3mm以下）で製品化されているものはほとんどない。本研究では、先端機能（把持鉗子や剪刀など）を容易に着脱可能であり、±90°以上の大屈曲が可能な外径3mm以下の極細径屈曲鉗子の開発・薬事申請を行い、国産で、様々な内視鏡手術に有用な手術器具の実用化を目指す。 2. 体制 研究開発参加機関： （株）スズキプレシオン、（独）国立成育医療研究センター 総括研究代表、副総括研究代表（研究開発指揮） 総括研究代表：国立成育医療研究センター 臨床研究センター 副センター長 千葉敏雄 副総括研究代表：同上 共同研究員 山下紘正、 他研究参加者12名 研究推進委員会（進捗管理、予定） 委員長：臨床研究センター副センター長 千葉敏雄、 委員：国立成育医療研究センター等より5名、 アドバイザー：福島県立医大 藤森敬也教授、 信州大 本郷一博教授 事務局：当協会（契約、管理、経理、会議支援）5名	実施内容 先端機能を簡便に着脱可能なモジュール型の極細径屈曲鉗子を開発するために必要となる要素技術を完成し、様々な内視鏡手術に対応可能なシステムを完成させる。以下の屈曲機構及び先端機能の着脱機構については、主に（独）国立成育医療研究センターが設計・解析を行い、（株）スズキプレシオンが試作及び加工プロセス制御の観点から評価を行う。初年度は以下の3つの研究開発要素（極細化、屈曲角度増大、モジュール化）につき、実用レベルの設計（強度解析含む）を行い、試作機を完成する。完成した屈曲鉗子については、（独）国立成育医療研究センターが仕様として設定した屈曲駆動が可能かどうかを、動物実験等による前臨床実験で評価する。 ① 屈曲鉗子の極細化、② 鉗子の屈曲角度の増大、③ 先端機能のモジュール化、④ 屈曲鉗子の動物実験等による前臨床評価、⑤ 屈曲鉗子の薬事申請準備、⑥ 事業化の調査検討、⑦ プロジェクトの管理・運営。	
			研究推進委員会等 9/21 第1回研究推進委員会 11/12 合同伴走コンサルティング 1/16 中間検査 2/6 有識者委員会 2/14 合同伴走コンサルティング 3/14 確定検査（予定）	

		目的・体制等	平成24年度活動の進捗状況（予定を含む）	
U F J コ ン サ ル	平成24年度 国際標準開発 事業（規格の 流通）	1. 目的、内容 国際標準規格の流通に関する国際比較調査	実施内容	WEB調査（海外95機関）、国内アンケート調査（200機関）、海外訪問調査（欧米7ヶ国、10機関）、国内訪問調査（12社）などを実施。
	活動成果発表 会	当協会の過年度事業の内容を発表し当協会の活動を広くアピールする。	活動成果発表会	平成23年度活動成果発表会 H24. 5. 16 機械振興会館 報告会：B3 研修室・B3-1会議室 懇親会：B3-2会議室 〔参加者〕66名 〔懇親会参加者〕32名
広 報 活 動	情報提供	協会の中から会員へ向けた情報発信	ホームページ	・平成23年度報告書及び平成23年度・平成24年度の事業に関する公開情報をそれぞれのページに掲載。 ・会員専用ページに、平成23年度成果報告書や各イベントの資料を掲載。 ・各委員会委員専用ページに、委員会資料等を掲載。 ・これらは随時更新。
			JRIAニュース	電子メールによる会員、一般向け広報（原則月例）
			情報提供	産業技術政策関係情報の提供（経産省／NEDO／JST等の情報）
	C T O 交流会	・企業CTOクラス*の交流機会 （*：協会の理事会社では理事クラス、理事会社以外の会社では協会にお届けいただいた会員代表者クラス、あるいは研究所長など、研究開発の管理責任者の方々） ・2ヶ月に1回開催（原則第3木曜日） ・8：00開催 講演と朝食会形式	4/19 第26回	「経済産業構造の転換と新たな産業の創出 ～「やせ我慢」から「価値創造」～」 経済産業省 大臣官房審議官（経済社会政策担当） 小宮義則之氏 〔参加者〕7名
			6/6 第27回	「東芝における研究開発について」 （株）東芝 研究開発センター 所長 斉藤史郎氏 〔参加者〕16名
			8/23 第28回	「炭素繊維複合材料の研究展開」 東レ（株）複合材料研究所 所長 北野彰彦氏 〔参加者〕12名
			10/4 第29回	「NEDOの取り組み－国際事業を中心に－」 新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）理事 倉田健児氏 〔参加者〕8名
		12/20 第30回	「我が国宇宙政策の課題と方向性」 内閣府宇宙戦略室長 西本淳哉氏 〔参加者〕11名	
		2/7 第31回	「テルモの人工心臓等先端医療機器、健康管理機器等の開発」 テルモ（株） 理事 野尻知里氏 〔参加者〕10名	

		目的・体制等	平成24年度活動の進捗状況（予定を含む）	
広報活動つづき	研究産業技術懇談会	<ul style="list-style-type: none"> ・研究開発あるいは研究開発の実用化などに関係する部長、課長クラスの方々の交流機会（官庁、大学の方々も含め。） ・月1回開催(原則第3水曜日) 16:30開催 講演30分、質疑応答・議論45分 ・提供いただいた話題を中心に議論・懇談。適宜、軽食などで気軽に。 	4/18 第44回	「自動車産業を取り巻く課題と対応」 経済産業省 製造産業局 自動車課 課長補佐（企画調整担当） 松野大輔氏 〔参加者〕 16名
			6/21 第45回	「産学連携の現状と今後の方向性」 文部科学省学術政策局 産業連携・地域支援課 課長補佐 寺崎智宏氏 〔参加者〕 15名
			7/25 第46回	「今後の宇宙産業の海外展開及び新たな宇宙ビジネス-我が国宇宙産業の国際競争力強化を目指して-」 経済産業省 製造産業局 宇宙産業室 室長 岡野克弥氏 〔参加者〕 15名
			8/22 第47回	「産業界で輝く研究開発人財の育成」 元住友金属テクノロジー株式会社社長（大阪府立大学 コーディネータ） 酒井俊彦氏 〔参加者〕 15名
			9/28 第48回	「標準化戦略に連携した知財マネジメント」 経済産業省 環境生活標準化推進室長 坂元耕三氏 〔参加者〕 15名
			10/10 第49回	「グローバル競争を勝ち抜く韓国の科学技術」 文部科学省 科学技術・学術政策局 政策課 課長補佐 兼 独立行政法人科学技術振興機構（JST） 研究開発戦略センター 特任フェロー 岩渕秀樹氏 独立行政法人科学技術振興機構（JST） 研究開発戦略センター フェロー 岡山純子氏 〔参加者〕 6名
			11/21 第50回	「我が国のレアメタル・レアアース対策について」 経済産業省 製造産業局 希有金属室長 井上幹邦氏 〔参加者〕 11名
			12/19 第51回	「農林水産・食品分野における研究開発の取り組み」 農林水産省農林水産技術会議事務局 産学連携室長 島田和彦氏 〔参加者〕 7名
			1/23 第52回	「技術流出対策と企業秘密保護」 橋本総合特許事務所 弁理士・経営コンサルタント 橋本 虎之助氏 〔参加者〕 8名
2/26 第53回	「イノベーション政策の現状と方向性について」 経済産業省 産業技術政策局 産業技術政策課 政策企画委員 吉村一元氏 〔参加者〕 21名			

		目的・体制等	平成24年度活動の進捗状況（予定を含む）	
会 務	総会	1. 目的、内容 協会の事業・運営に関する事項について審議決定。 2. 体制と出席者 会長・副会長・専務理事、会員代表者、経済産業省	第21回通常総会 H24. 5. 21 16:15～17:15 KKRホテル東京（出席58名）	
	理事会	1. 目的、内容 協会の事業・運営に関する事項について審議決定。 2. 体制と出席者 理事・監事	第79回 H24. 5. 21 15:00～16:10 KKRホテル東京（出席 理事33名、監事2名） 第80回 H24. 9. 11 15:00～16:00 KKRホテル東京（出席 理事33名、監事2名） 第81回 H25. 3. 7 15:00～16:00 KKRホテル東京（予定）	
	運営委員会	1. 目的、内容 ・協会の運営、事業の推進等の議論を行うと共に入会予備審査を実施。 ・原則として理事会前に年間3～4回開催。 ・委員会による企画立案機能を強化するため、運営委員会で企画・評価を実施。 2. 体制と出席者 理事会社及び監事会社から選出された委員で構成 運営委員 18名 委員長：(株)IHI 技術開発本部 技術企画グループ 水野部長	第86回 H24. 5. 9 14:00～16:00 協会会議室 第87回 H24. 7. 17 16:00～17:30 協会会議室 第88回 H24. 9. 4 15:00～17:30 協会会議室 第89回 H24. 12. 21 10:00～12:00 協会会議室 第90回 H25. 2. 22 15:00～17:30 協会会議室	
	企画・評価 ワーキンググループ	1. 目的、内容 ・会員各社の要望に応じて活動を行っていくために、協会の事業に関する企画及び評価機能の強化の目的で設置。 ・原則として年度初めに1回開催 ・運営委員に替わり企画の討議を行う、また、評価では外部識者を入れた討議を行う。 2. 体制と出席者 運営委員会の中核的メンバーと外部有識者による評価委員で構成 委員 7名 委員長：(株)IHI 技術開発本部 技術企画グループ 水野部長	第1回 H24. 4. 9 15:00-17:30 協会会議室	
	一般社団法人 移行事務	1. 目的、内容 ・次年度より一般社団法人へ移行するため、電子認可申請、申請後の審査、及び一般社団法人に向けた準備作業を実施。	H24. 9. 20 移行認可電子申請 H24. 12. 25 審査担当官指示による補正開始 H25. 2 公益認定等委員会での審査 H25. 3. 18頃 移行認可書の交付 H25. 4. 1 登記	
その他	技術研究組合 運営懇談会事務局	技術研究組合運営懇談会の事務局業務の受託		